

道徳学習指導案（2年〇組）

- 1 主題名 法やきまりの意義（内容項目4－(1) 遵法、社会の秩序と規律）
（資料名 「ラッキーなはずなのに（自作資料）」）

2 主題設定の理由

(1) ねらいにかかわる生徒の実態

中学生の時期には、生徒たちは独立心が旺盛になり、規則やきまりについて自分を束縛するものとしてのイメージが強くなっていく。また、明らかに人に迷惑を掛けるきまりは守ろうとするが、身だしなみや服装など、直接周囲に迷惑を掛けてないと感じるものに関しては、守ろうとする意識が低かったり、見つからなければ守らなくてもいいのではないかと考えたりすることもある。普段の生活の中で何かを判断する時に、友達ときまりの間に挟まれた場合には、きまりを守らないことで起こる可能性について深く考えずに、友達を優先してしまうこともある。このような生徒たちに、資料を通してきまりの意義を理解し、社会の秩序と規律を高めるために必要なことを考え、行動しようとする態度を育むことは、たいへん意義のあるものであると考える。

(2) ねらいとする道徳的価値について

4－(1)は、法やきまりの意義を理解し、進んで守るとともに、自他の権利を大切にして義務を果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める生徒を育てようとする内容項目である。

中学生になると、社会の仕組みもある程度理解できるようになり、義務感と正義感を身に付けている生徒がいる。しかし、一方で法やきまりは自分を束縛するものとして疎ましくとらえていたり、権利は強く主張しても、義務をなおざりにしたりすることも見られる。そこで、法やきまりは自分たちの生活や権利を守るためにあり、それを進んで守ることで秩序と規律のある社会が実現されていくということを、深く考えられるように工夫することが必要である。

(3) 資料について

本資料「ラッキーなはずなのに」は、違法とは知りながら、録画したアニメを再編集して動画共有サイトに投稿している僕が、同じ事をしていた親友からもう投稿することはやめると告げられる。後日僕は、欲しかった本の内容がほぼ見られるという違法なサイトを見付けるが、その本を購入していた親友A男の言葉を思い出し、閲覧しようか迷ってしまうという内容である。法やきまりについて「ルールだから守る」という他律的な考えから、相手を思いやる気持ちや「自分を裏切らない」という自尊心との関わりに気付きながら「尊重したいから守る」という自律的に考えられるようになる資料である。

3 指導方針

○情報モラルに関わって、動画共有サイトの違法動画や出版物の違法アップロードなど、著作権について扱う。なお、著作権そのものを学習する内容にならないようにする。生徒が日常で使っている動画共有サイトを扱うことで、資料の中のできごとを身近で起こりうることとして、資料の登場人物と自分とを重ね合わせて考えられるようにする。

○展開後段では、インターネットを利用するに当たってのいろいろな法やきまりとの関わり方について、自分の生活を振り返り、今後の思いや課題を自覚できるようにする。

4 研究との関わり

本研究では、「道徳の時間のための情報モラル自作資料集の作成と活用」を研究主題とし、「生徒の道徳的価値の自覚を深める指導の充実を目指して」を副主題に研究を進めてきている。生徒にとって身近に感じる情報モラルに関わる資料を活用しながらも、問題の根底にある道徳的価値について、考えが深められたかどうかを検証する。

5 情報モラル教育との関わり

本時に関わる情報モラル教育の指導事項は、「すべての先生のための『情報モラル』指導実践キックオフガイド」（2007）と、それを基に作成された「情報モラル教育実践ガイダンス」（2011）に示された、「心を磨く領域」の「法の理解と遵守」分野、「c4-1違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行為は絶対に行わない」「c4-2情報の保護や取扱いに関する基本的な法律の内容を知る」である。

6 本時の展開

- (1) **ねらい** 法やきまりの意義を理解し、よりよい社会の実現に向けて、自分に課せられた義務を確実に果たそうとする態度を育てる。
- (2) **準備** 読み物資料 ワークシート
- (3) **展開**

学習活動	時間	主な発問 (・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点 (太字は情報モラルに関わる内容)
1 本時の学習課題をつかむ。	5分	○学校のきまりで禁止されていることを友達から誘われたらどうするかこれまでの生活を振り返る。 ・絶対に守る。 ・たぶん守る。 ・学校のきまりだけどたぶん守らない。	○生徒の意識や身近な問題について、事前のアンケート結果から、価値への方向付けを図る。
2 資料「投稿してみたものの」をもとに、登場人物と自分を重ね合わせながら話し合う。	30分	○違法と知りながら、動画を投稿していたときの僕は、どんなことを考えていただろう。 ・みんなやっていることだからいい。 ・みんなの評価が嬉しい。 ・別に迷惑はかかっていない。 ・削除されたら気をつけよう。 ○A男から、動画の投稿をやめたことを伝えられたとき、「僕」はどんなことを考えただろう。 ・そうなんだ。 ・僕もやめた方がいいかな。 ・僕はやめないけれどね。 ◎閲覧するためのクリックがなかなかできないで迷っている僕は、どんなことを考えていただろう。 ・クリックすると、作者の権利を奪ってしまうかもしれない。 ・見たいけれど、作者に申し訳ないしよくないかもしれない。 ・自分にも作者を応援したい気持ちはあるから、見るのはよくない。	○きまりを守らないのはよくないことだとわかっていても（価値理解）、自分に都合のいい解釈で、つい破ってしまう「僕」の弱さ（人間理解）に目を向けさせるようにする。 ○動画共有サイト内での著作権に関わることについて、簡単に説明する。 ○A男の話聞いても、著作権について深く考えておらず、まだ自分もやめるとはっきり決めていない「僕」の弱さに目を向けさせるようにする。 ○違法サイトとわかっていても、閲覧するだけなら大丈夫であろうという思いと作者の著作権を守らなくてはという思いを自分との関わりで考えさせ、価値理解、人間理解、他者理解を深められるようにする。 ○迷っているのは、作者を応援したい自分を裏切りたくないからであることに気付けるようにする。
3 本時で考えたことを振り返り、発表する。	10分	◎インターネット上の法律やきまりはなぜあるのか。また、それらについて、自分自身が守れているものや守れていないものを振り返って、どうすれば守れるようになるか、考えま	○インターネットを利用するに当たっての法やきまりとの関わり方について自分の生活を振り返り、今後の思いや課題を自覚できるようにする。

		しょう。 ・その人の生活を守るためにある。著作権を破られると、作者の収入が減ってしまう。音楽などを違法コピーして友達に配ってしまった。作った人の努力や気持ちを考えていきたい。	
4 私たちの 道徳を 読む。	5 分	○私たちの道徳 134ページを読む。	○権利や義務の側面から法やきまりを捉えさせ、義務を果たしていこうとする態度を育てたい。